

結膜炎について

昔から眼科の病気で最も多いのが結膜炎です。症状は、充血、目やに、異物感が主で、結構うっとうしく感じます。目薬で早期に治る場合が多いのですが、結膜炎の種類によっては長期間治らない場合や、流行することもあります。また、自分では結膜炎と思っていたも他の病気の場合もあります。結膜炎を理解して頂きたく、今年は、結膜炎を取り上げました。

*結膜炎とは？

結膜は、まぶたの裏側と眼球前方のしろめの部分の表面を覆っている薄い膜です。この部分が赤く充血して炎症を起こしたものを「結膜炎」と言います。

結膜炎は、原因によってうつるものとうつらないものに大別されます。

*主な結膜炎

・感染による結膜炎（うつるもの）

①ウイルス性結膜炎

ウイルスの感染による結膜炎です。代表的なアデノウイルスによる結膜炎では、結膜が充血し、目やに、涙が出て、ゴロゴロとした目の異物感や痛みが出てきます。まぶたの腫れが強くなり、のどの痛みや、発熱もあります(図1)。最初は、片目だけにおこり、数日中に両目になることがあります。

一般に「はやり目」、「プール熱」と呼ばれるものがこの結膜炎です。感染力が強く、短期間に人から人へと感染するので、家族内感染や、学校内での集団感染がおこります。



②細菌性結膜炎

細菌の感染による結膜炎です。細菌の種類により程度の差はありますが、結膜が充血し、目やに、涙が出ます。

感染力が弱いため、感染の危険はそれ程大きくありませんが、どこにでもいる菌なので、抵抗力の弱い子供や目にケガをしたとき、病気などで身体の抵抗力が落ちたときなどに感染しやすくなります。

・感染ではない結膜炎（うつらないもの）

①アレルギー性結膜炎

アレルギーの原因となる物質が結膜に接触して反応が起こるものです。代表的なものにスギ花粉症があります。結膜が充血し、目やにが出て、痒くなります。まぶたが腫れ、痛みや、異物感が強くなることもあります。

アレルギーの原因は、個人により異なりますが、スギなどの花粉や、ハウスダスト、ダニ、カビ、ペットの毛などが多いようです。

コンタクトレンズなどの異物刺激が原因でまぶたの裏に1～2mmの突起がびっしりできる巨大乳頭結膜炎や、こどもに多い慢性重症型で、まぶたの裏やしろめとくろめの境が盛り上がる春季カタルなどもアレルギーによる結膜炎です。

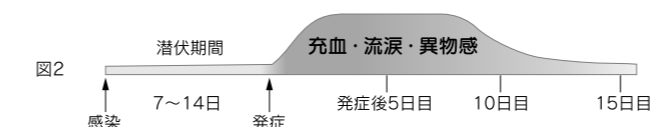
*結膜炎の治療

・ウイルス性結膜炎

残念ながら、今のところアデノウイルスに対する有効な薬剤はありません。感染したウイルスに対する抗体が体内で作られるのを待つしかありません。そのため、不快な症状を和らげる目的で、炎症を鎮める効果のある目薬や抵抗力が落ちている結膜に更に細菌が感染しないように、抗菌薬の目薬を使用します。

人から感染しても、1週間程度は、症状の出ない潜伏期間があり、一旦発症すると治療を開始しても約1週間

は、症状が治まりません。その後徐々に自然に良くなりますが、炎症が強い場合は、黒目の表面に小さな濁りが残ることもあります(図2)。



・細菌性結膜炎

細菌性結膜炎は、ウイルス性結膜炎と異なり、抗菌薬が有効ですので、適切な抗菌薬の目薬を使用することにより、数日で治ります。細菌の種類によっては、抗菌薬の眼軟膏や飲み薬を使用することもあります。

・アレルギー性結膜炎

アレルギー性結膜炎は、アレルギーを抑える目薬を使用します。強い症状があるときは、さらに炎症を抑えるステロイドの目薬を加えます。良く効く代わりに眼圧が上がって、知らない間に緑内障になっていることがあります。これらの副作用をチェックするため、眼科で検査を受けて、注意しながら使用します。角膜がにごり、将来、視力低下を来すおそれのある子供の春季カタルでは、免疫抑制剤の目薬を使うこともあります。いずれにしても、花粉、動物の毛などアレルギーを起こす原因がわかっている時は、できるだけそれを避けることで、症状が軽くなります。

*日常生活での対策

・しっかり治して、人にうつさないために

ウイルスによる結膜炎と眼科で診断されたら、周囲の人に感染を広めないように注意する必要があります。他人に感染させる恐れのある期間は、アデノウイルスによる結膜炎では、約1～2週間です。

アデノウイルスによる結膜炎は、学校伝染病に指定されており、医師が周囲への感染力がなくなったと判断するまで、登校を禁止することになっています(図3)。社会人でも集団感染を防止する意味で、できるだけ仕事を休むのが望ましいといえます。



ウイルスは目をこすった手や目を拭いたハンカチなどから感染することがほとんどです。感染を予防するにはよく手を洗うことが重要です。また、目を拭くときはペーパータオルなどの使い捨てのものを使い、タオルなどは家族と別のものを使い、お風呂は最後に入るようにしましょう(図4)。コンタクトレンズも医師の許可が出るまで中止して下さい。

アレルギー性結膜炎のように、うつらない結膜炎でも目薬の貸し借りでうつる結膜炎をもらう恐れがあります。他人の目薬を借りてつけてはいけません。



*後遺症にも注意！

ウイルス性結膜炎では、発病中や、いったん目やにや充血が治まった後、角膜に濁りが出て、かすんで見えにくくなる場合があります。ステロイドの目薬で治療しますが、治るまでに数カ月から1年以上かかる場合もあります。副作用に注意しながら、眼科通院が必要となります。自覚症状が無くなったからといって途中で通院をやめない様にして下さい。ステロイドの目薬をやめても、眼圧が上がったまま緑内障になっていることがあるからです。

今日10月10日は目の愛護デー

富山県眼科医会

ご不明な点はかかりつけの、もしくはお近くの眼科医にご相談ください。

主催：厚生労働省 都道府県 公益社団法人日本眼科医会 後援：文部科学省 協賛：公益社団法人日本医師会 公益財団法人日本眼科学会 公益財団法人日本アイバンク協会 公益財団法人日本失明予防協会